

令和4年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

キックオフミーティング 配布資料

活動団体名：株式会社YMFG ZONEプランニング

活動地域：山口県周防大島町

活動におけるテーマ

『地元高校と連携したESDモデルの構築及び地域課題解決と連動したエコツアーリズムの推進』

本事業への関わり：1年目

活動団体と地域の紹介

株式会社YMFG ZONEプランニング

- 地域金融機関の山口フィナンシャルグループのグループ会社であり、地方創生・地域活性化コンサルティングにおいて中央省庁・自治体からの豊富な受託実績を有しています。
- 地域における新たな経済循環の創出に向けた検討、地域ネットワーク構築の支援等を通じて、共同事務局として地域循環共生圏（ローカルSDGs）の形成に向けた取組を行います。
- 周防大島町及び山口県東部海域にエコツーリズムを推進する会と共に共同事務局を形成し本事業に取り組みます。



株式会社YMFG ZONEプランニング
地域のために、あるべき未来に向かって

周防大島町の現状と地域資源

【基本情報】

- 山口県南東部の瀬戸内海に位置し、全域が瀬戸内海国立公園指定される等、美しい景色や自然に恵まれている。
- 人口は15,539人、高齢化率は54.1%となり、人口減少・少子高齢化が顕著に進む地域であり、農業及び水産業が主要な産業となっている。
- 持続可能な地域づくりを進めていくための担い手育成に課題を有する

(※数値はいずれも令和2年9月時点)



(出所：周防大島町の風景/町提供資料より)

【地域資源】

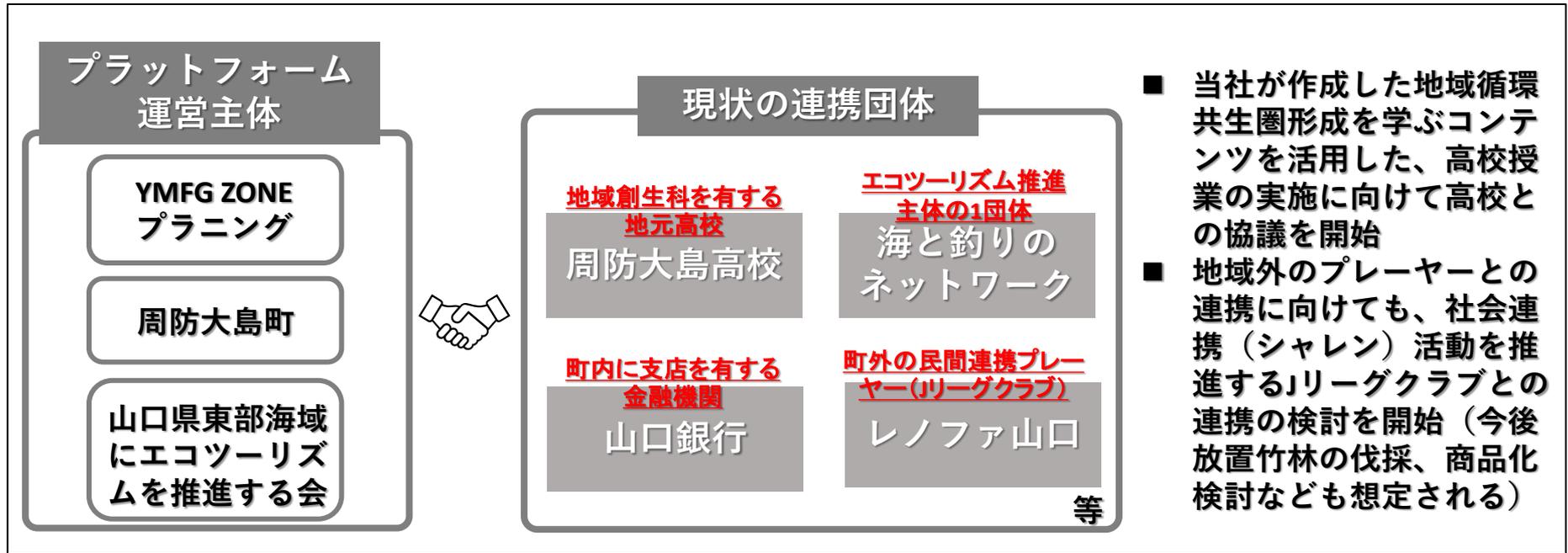
- 瀬戸内海国立公園では初となる「海域公園地区（町南東沖の海域）」に指定されている国内最大規模の二ホンアワサングの群生地（約3,000㎡）
- 地域の自然保全に向けたエコツーリズム等に取り組む多様な団体
- 地域創生を学ぶ学科を有する周防大島高校（県立高校）



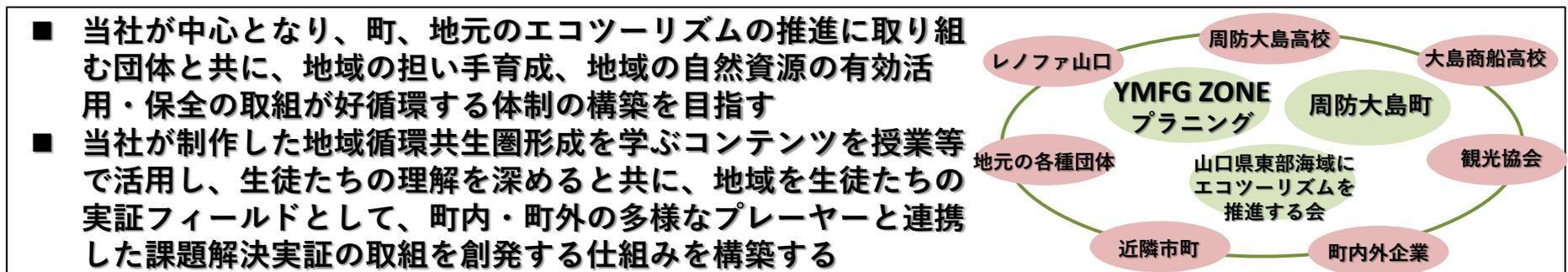
(出所：エコツーリズム等の活動風景・広報チラシ、二ホンアワサング/町提供資料より)

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

現時点での体制



環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ（体制、機能、規模感、等）



地域の「ありたい未来」を実現するために何をするか

地域のありたい未来

・当海域に群生するニホンアワサンゴをはじめとする豊かな自然の活用を通じた保全を進めると共に、地域の子供たちをこの取り組みに参画させ、**町をフィールドとした地域課題解決と次世代の担い手育成が連動するESDモデルによる地域づくりを目指す。**

課題（地域の課題、ありたい未来を達成するための障害、等）

- ・地域の次世代の担い手の育成や、地域課題解決に取り組む際の事業化検討のノウハウの不足（域外プレイヤーの巻き込み）
- ・地域の自然資源について知る機会の確保 等

資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む

- ・ニホンアワサンゴに代表される地域の自然資源
- ・地域創生を学ぶ周防大島高校
- ・地域のエコツーリズムの推進に取り組む各種団体 等

取組（ありたい未来達成に必要な取組、現在想定している事業のタネ、等）

- ・周防大島高校の授業と連携した地域課題解決型学習（PBL）を通じたESD・金融教育の実践
- ・地域での課題解決を通じた連動したエコツーリズムの活性化
- ・生徒の取り組んだ事業におけるクラウドファンディング等を活用した事業化検討（マグカップ、アロハシャツ等の返礼品としての活用検討等） 等

成果（取組によって出したい成果）

- ・地域の課題解決と次世代の担い手育成が好循環する仕組みの構築
- ・地域の自然を消費するのではなく、新たな活用ストーリーを検討することで、既にあるものへの経済的価値を創出するなど、保全と活用が連動する仕組みの構築

(ご参考) 学習コンテンツのイメージ

経済産業省 未来の教室「STEAMライブラリー」にて公開されている当社作成コンテンツ

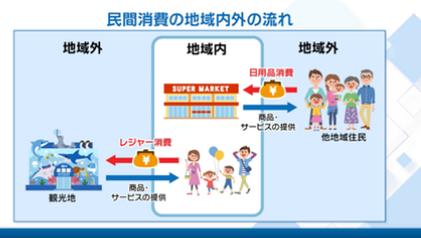
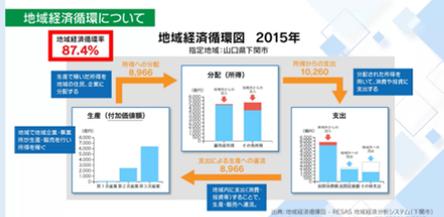
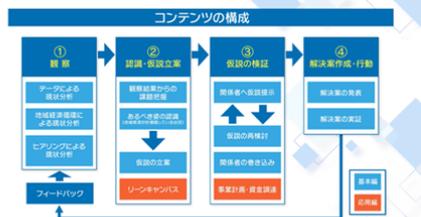
■ 取組概要

- 経済産業省が開発した学校でも個人探究でも使えるデジタル教材「STEAMライブラリー」に、地域課題解決をお金の流れ（地域経済循環分析）から考えるコンテンツや、「地域経済循環共生圏」の構築方法について学ぶコンテンツを開発、提供した。
- 今後は、周防大島高校での取組をはじめとした事例創出を行うことで、自治体や高等学校等の教育機関との連携を強化し、ESD推進を図る。

「地方創生はあなたのまちを救えるか？」

■ コンテンツ概要（全10コマ 動画20本）

- コンテンツでは、お金の流れ（地域経済循環）という切り口から、地域の現状を把握し、自身と地域の課題について多面的に考えるとともに、論理的に課題解決する手法として、観察、仮説立案・検証、課題解決案作成の具体的なプロセスと重要な考え方等について学ぶ。
- 合わせて、事業検討や仮説立案・検証についてリーンキャンパスや収支計画書等の実際にフレームワークを用いることで、課題解決案の事業化に向けて実現可能性を高める方法を学ぶ。



「地域経済循環共生圏（ローカルSDGs）の構築方法を学ぶ～なぜ銀行員が農業をするのか？～」

■ コンテンツ概要（全8コマ 動画12本）

- 本コンテンツでは、**銀行員が農業に取り組むバンカーズファームの事例から、地域経済循環共生圏の考え方や、構築に向けたアプローチやプロセス、SDGsの考え方、合意形成手法等を、事例を交えて学ぶ。**
- 特に多様な主体との連携が地域経済循環共生圏構築には重要であることから、合意形成手法については、ワークショップの開催方法等を具体的に学ぶ。



年間スケジュール

